

The heroic image of Magic Johnson and Michael Jordan in the monthly magazine *DUNK SHOOT*

1K08A016-1 石川 洋之

指導教員 主査 リー・トンプソン 先生 副査 葛西 順一 先生

【目的】

スポーツ界にはあらゆるヒーローが存在する。そのヒーローによって、そのスポーツの人気の左右されることも多々ある。それほどスポーツ界にとってヒーローとは、影響力が強い。私は様々なスポーツが好きであるが、なかでも NBA(米プロバスケットボール協会)は子どもの頃から大好きで、現在でも最も関心のあるスポーツである。

そんな NBA のなかにも、もちろんヒーローが存在する。その最たる人物が、マイケル・ジョーダンである。彼は引退した今も、多くの現役選手の憧れである。アパレルブランドである、「ジョーダン」ブランドも世界的人気である。また、マイケル・ジョーダンはバスケットボール界だけでなく、世界的にも認知されているヒーローである。バスケットボールにあまり興味のない人であっても、マイケル・ジョーダンならば知っているという人が多い。それほどにまで、ジョーダンの認知度は高い。

一方、ジョーダンと並んで NBA を代表するヒーローと言えば、マジック・ジョンソンである。彼のプレースタイルである「ショータイム・バスケットボール」は多くの観客を魅了した。だが、世界的に知られているのはマイケル・ジョーダンである。NBA に残した功績やインパクトは、ジョーダンもジョンソンも同じである。では、なぜこれほどヒーローとして、二人の差が開いてしまったのか。この理由を知ることが、本研究の目的である。

【方法】

日本を代表する月刊 NBA 専門誌である『DUNK SHOOT』の、93 年創刊号から現在までに発行されているすべての号を用いて行う。そのため、日本スポーツ企画出版社、DUNK SHOOT 編集部を訪問し、そこに保管されているすべての号を閲覧する。『DUNK SHOOT』に掲載されているマイケル・ジョーダンとマジック・ジョンソンについての記事をすべて読み、二人がどのように描かれているかを検証する。その際、検証する記事は、マイケル・ジョーダンとマジック・ジョンソンが個人で掲載、特集されているもののみを対象とし、チームレポートや試合のレポートは対象外とする。

【結果】

マジック・ジョンソンはプレーよりも人間性に焦点を置いて描かれていた。「ビッグ・スマイル」、「陽気」、「樂觀的」、「さわやか」、「愛くるしい笑顔」、「人なつっこい笑顔」、「明るく朗らか」、といったものが代表的である。周囲を明るくする太陽のように描かれていた。プレー面では「魔法」や「マジック」、「ショータイム」などの描写が多かった。また、映画館やショッピングモールの建設など、ビジネスマンとして成功しているという記事も多かった。マイケル・ジョーダンはプレー面も人間性も両方ともに描写が多かった。「空中遊泳」、「飛行」、「鳥人」など、人間離れたプレーヤーとして描かれている。人間性では、「勝つことを渴望している男」、「生来の負けず嫌い」など負けず嫌いに関する言葉が非常に多かった。

【考察】

ジョーダンが世界的なヒーローになり、ジョンソンがそうならなかった理由は、4 点ある。

①ジョンソンのエイズウィルス感染の事件、②ジョーダンの活躍による「ジョーダン」ブランドの世界的成功、③ライバルの有無、④バルセロナオリンピックでのドリームチームの躍進、である。

ジョンソンのエイズウィルス感染によって、彼の人気なくなるということはなかったが、病気というレッテルが当時のエイズに関する誤解も相まって、ジョンソンのイメージを著しく落としたといえる。また、ライバルさえも作らせないジョーダンの神々しい活躍が「ジョーダン」ブランドの価値を一層高め、世界展開を可能とさせ、同時に世界に認知された。バルセロナオリンピックでのドリームチームの圧倒的な強さも、理由のひとつである。世界は、全盛期のジョーダンのプレーに驚愕する。ジョンソンは当時 NBA を引退しており、全盛期ではなかった。つまり、世界はジョーダンに注目した。このドリームチームの躍進が NBA、特にジョーダンを世界に知らしめる契機となったと考えられる。以上が、ジョーダンとジョンソン、二人のヒーローとしての差を生む理由である。